

---

# はじめに

## 感染症への対応と超長寿社会における医療提供体制の構築

日本医師会の活動は、定款第3条に、「都道府県医師会及び郡市区等医師会との連携のもと、医道の高揚、医学及び医術の発達並びに公衆衛生の向上を図り、もって社会福祉を増進することを目的とする」と定められており、地域医療の充実を図ることを原点として、国民のために安全で安心な医療提供体制を構築することに寄与し、健康に資することを目的として行われてきております。

日本では、人生100年時代という超長寿社会を迎えており、そのなかでどのように良質で安心・安全な医療を提供していくか、日本の優れた財産である公的医療保険制度による国民皆保険をどう堅持していくかなど、本会が国民のために果たしていくべき役割は多岐にわたっております。

令和2年度は、このような従来の活動に加え、新型コロナウイルス感染症が世界的に蔓延するという、近年経験のなかった社会状況となりました。通常の医療と新型コロナウイルスに係る医療を両立させるため、日本医師会は強力に政府に働きかけるとともに、関係団体と協力しながらこの難局に立ち向かってまいりました。医療関係者のたゆまぬ努力と、国を挙げてのワクチン接種の推進、国民の行動自粛やマスク着用などの協力があって、他国に比して、被害は一定程度抑えられてきましたが、今後の感染拡大に備えた医療提供体制の構築にあたって、解決すべき課題も残されておりますので、引き続き全力を傾注してまいります。

本書では、このような新型コロナウイルス感染症に対する活動も含め、令和2年度の日本医師会の活動をまとめ、医師の倫理・医療倫理の敷衍、医師に対する教育活動、国民への医療の啓発活動、政府・自治体・行政との意見交換、国際交流などについて記録をしております。

健康で長寿であるということは、国民にとっての最大の関心事です。今後も幸福で安心な社会であり続けるために、日本医師会は充実した医療の提供に努めてまいります。

本報告書を、ぜひご一読いただき、日本医師会の基本方針とその活動にご理解を賜われれば幸甚です。

公益社団法人 日本医師会  
会長 中川 俊男